

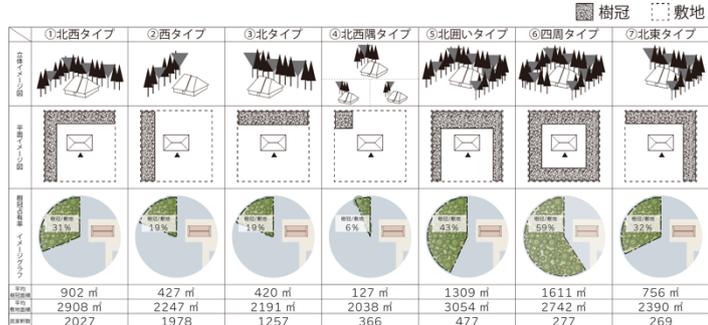
令和5年度の研究(または活動)内容

2023年度は、主に3つの調査・研究活動を行なった。

(1) 農村景観の調査

① 世界農業遺産「大崎耕土」の屋敷林に関する調査

世界農業遺産「大崎耕土」における屋敷林について、生物多様性の担保の観点から、その「緑量」を計測した。なお、これらの成果は「大崎耕土「居久根」保全マニュアル」へ援用され地域への公開還元も進んでいる。



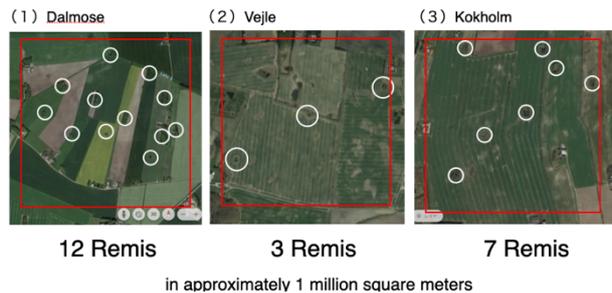
(屋敷林調査の例:「大崎耕土「居久根」保全マニュアル」へ掲載)

② 農村部における民家の特性とその変容過程に関する研究

街道に面するトタン葺民家の構成とその変容過程に関する研究、街道に面する民家の敷地利用の変化に関する研究など。

③ ヨーロッパ農村部における屋敷林景観など文化的生態的景観の実態に関する研究

ヨーロッパ、とくにデンマークにおける文化的生態的景観の実態について視察を行い、その一部の現存状況について実態調査を行った。

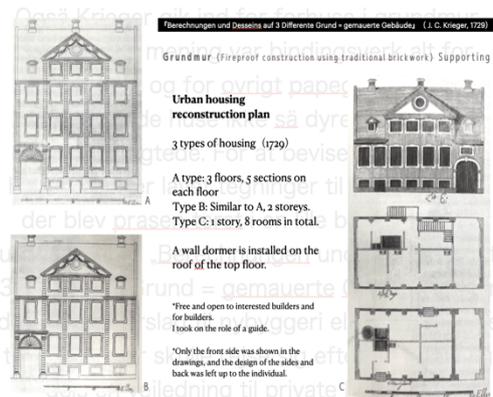


(研究資料例: オーフス建築大学の研究会にて発表)

(2) 都市景観の調査

① 都市における災害(とくに大火)とその町への影響に関する調査

コペンハーゲン市の歴史的市街地を対象として、大火による町並み景観の影響に関する調査を行った。



(研究資料例: オーフス建築大学の研究会にて発表)

② 旧街道沿いの町並みの構成要素とその変容に関する調査

仙台市長町にて都市景観の調査活動を行った。これらの成果は、太白区との共同講座及びその成果報告の場で情報公開共有を行い、地域への公開還元活動も進んでいる。



(町並み調査の例)

(3) 農村景観の保全 WS

南三陸に現存する民家の再生活用を提案。その上で、学生らの学びの場として建物の改修作業をセルフビルド形式にて実施(地元大工の管理下にて)。これらの活用は、地域の皆さんに当該地域における景観要素としての魅力を発信する機会になると考えている。2023年9月に改修作業が完了し、猫カフェとしてオープンし現在に至る。



(南三陸町の民家再生 WS の様子と開店後のカフェの様子)